

大腸がんに関する全国意識調査 集計結果報告（広島県内）

～「進行するまで自覚症状がないこと」を6割以上が、「検査の内容」を3割以上が認知していないことが判明～

NPO法人プレイブサークル運営委員会(所在地:東京)は、本年3月から4月にかけて、大腸がん検診対象世代である40代～60代の全国の男女13,896名を対象に、インターネットによる大腸がん検診に関する意識調査を独自に実施いたしました。その集計結果から広島県内では「大腸がんは進行するまで自覚症状がないこと」を6割以上が認識しておらず、「大腸がんの一次検査の内容」を3割以上が認知していないことが判明し、それらが大腸がん検診の未受診に影響していることが判りました。

日本では大腸がんにかかる人の数がこの30年で約6倍に増え、特に近年は女性のがん死亡原因の第一位*1となっています。早期発見・治療であれば90%以上が治癒するにもかかわらず、大腸がん検診の受診率は約24%*2と低い状況です。国民一人ひとりが大腸がんに関する正しい知識をもって検診を受けることで、早期発見・治療の機会を逸すことがないよう、報道関係者の皆様にご参加いただき、今後の情報発信に役立てていただければ幸いです。

*1独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター 2009年調査 *2厚労省 平成22年国民生活基礎調査

【調査結果】 対象：全国47都道府県 13,896名（広島県 男女300名：男性150名、女性150名）

■「自覚症状がないこと」に対する認知

「Q1 大腸がんは進行するまで自覚症状がないことを知っていましたか？」という問いに関して、全国の回答結果では、「全く知らなかった」と「あまり知らなかった」の計は65%、「知っていた」が35%でした。 広島県では「全く知らなかった」と「あまり知らなかった」の計は64%、「知っていた」が36%となり、認知が低いことが分かりました。

■「大腸がんが男女ともに増えていること」に対する認知

「Q2 大腸がんが男女ともに増えていることを知っていましたか？」という設問に関して、全国の回答結果では、「知っていた」が38%、「あまり知らなかった」と「知らなかった」の計は62%でした。 広島県では「知っていた」が37%、「あまり知らなかった」と「知らなかった」の計は62%で、増えていることへの認知が低いことが分かりました。

■「一次検診の内容」に対する認知

「Q3 大腸がん検診の一次検査の内容をご存知ですか？」という設問に関して、全国の回答結果では、「便潜血検査」が68%、「その他の検査」が32%でした。 広島県では「便潜血検査」が69%、「その他の検査」が31%で、3割以上が検診内容を認知していないことが分かりました。

■一次検査受診有無

「Q4 大腸がんの一次検査である便潜血検査を受けたことがありますか？」という設問に関して、全国の回答結果では、「毎年受けている」は35%、「何度か受けたことがある」は30%、「全く受けたことがない」が35%でした。 広島県では「毎年受けている」は33%、「何度か受けたことがある」は35%、「全く受けたことがない」が32%で、受診率が低いことが分かりました。

■大腸がん検診を受けた方の理由

「Q5 どのような理由で大腸がんを受けましたか？」という設問に関して、全国の回答結果の上位5つは、「職場の健診にあった」が32%、「市区町村検診にあった」が21%、「人間ドックにあった」が18%、「検診方法が簡単だった」が6%、「安心感を得たかった」が5%でした。 広島県の回答結果の上位5つは、「職場の健診にあった」が26%、「市区町村検診にあった」「人間ドックにあった」が16%、「安心感を得たかった」が7%、「検診方法が簡単だった」「検診の有用性を理解している」「費用が安い」が6%でした。

■検診を受けない理由

「Q6 大腸がん検診を受けていない理由をお聞かせください」という設問に関して、全国の回答結果の上位5つは、「どんな検査なのか知らない」が17%、「たまたま受けなかった」が15%、「自覚症状がない」が14%、「必要性を感じない」が10%、「費用がかかる」が10%でした。 広島県の回答結果の上位5つは、「どんな検査なのか知らなかった」が17%、「たまたま受けなかった」が15%、「自覚症状がない」が13%、「便の提出が面倒」が12%、「費用がかかる」が11%でした。

本リリースの掲載・取材に関するお問い合わせ先

NPO法人プレイブサークル運営委員会／広報担当：松井、戸田、山岡、高梨

TEL:03-6901-4245 FAX:03-6302-0434 E-mail: pr@bravecircle.net

※NPO法人プレイブサークル運営委員会は官民連携により全国で大腸がん検診啓発活動を展開する団体です

【調査概要】 広島県

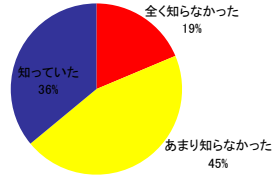
実施時期:平成24年3月~4月 対象年齢:40代~60代 調査方法:インターネット意識調査
 回答数:300名(男性150名、女性150名)

<大腸がんの自覚症状有無認知>

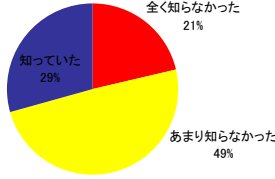
設問:あなたは、大腸がんは進行するまで自覚症状がないことを知っていましたか? (単一回答)

		n=		
		全く知らなかつた	あまり知らなかつた	知っていた
全体	300	18.7	45.3	36.0
男性	150	21.3	49.3	29.3
女性	150	16.0	41.3	42.7

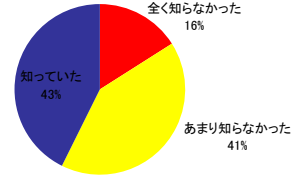
全体



男性



女性

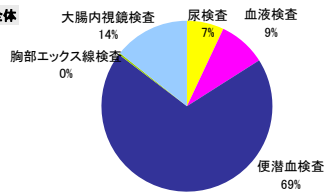


<大腸がん検診の一次検査(便潜血検査)の内容認知>

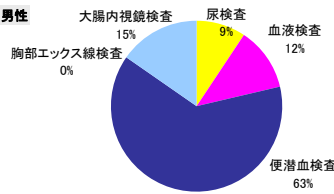
設問:あなたは、大腸がん検診の一次検査の内容をご存知ですか?以下より1つお選びください。(単一回答)

		n=				
		尿検査	血液検査	便潜血検査	胸部エックス線検査	大腸内視鏡検査
全体	300	7.0	9.0	69.3	0.3	14.3
男性	150	9.3	12.0	63.3	0.0	15.3
女性	150	4.7	6.0	75.3	0.7	13.3

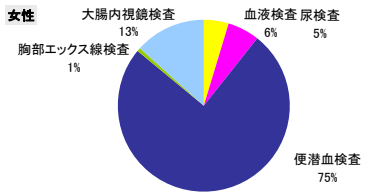
全体



男性



女性

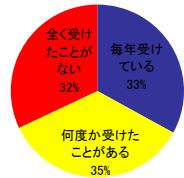


<大腸がん検診の一次検査(便潜血検査)の受診有無>

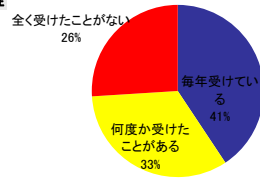
設問:あなたは、大腸がん検診の一次検査である便潜血検査を受けましたことがありますか? (単一回答)

		n=		
		毎年受けている	何度か受けたことがある	全く受けたことがない
全体	300	33.0	35.0	32.0
男性	150	40.7	33.3	26.0
女性	150	25.3	36.7	38.0

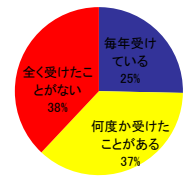
全体



男性



女性



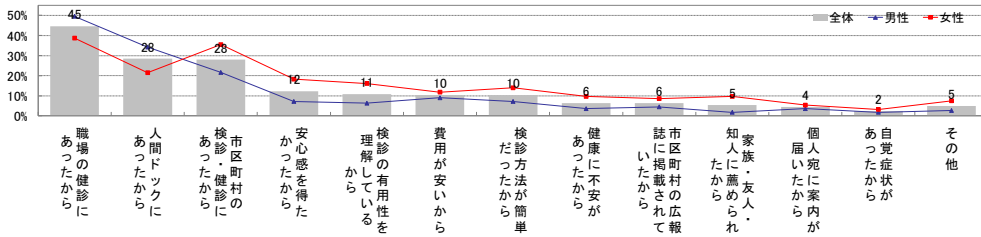
<大腸がん検診の一次検査(便潜血検査)の受診理由>

設問:どのような理由で大腸がん検診(便潜血検査)を受けましたか? (複数回答)

(「一次検査の便潜血検査を「毎年受けている」「何度か受けたことがある」と答えた人を対象)

		n=													
		職場の健診にあったから	人間ドックにあったから	市区町村の検診・健診にあったから	安心感を得たから	検診の有用性を理解しているから	費用が安いから	検診方法が簡単だったから	健康に不安があったから	市区町村の広報誌に掲載されていたから	家族・友人・知人に薦められたから	個人宛に案内が届いたから	自覚症状があったから	その他	
全体	204	44.6	28.4	27.9	12.3	10.8	10.3	10.3	6.4	6.4	5.4	4.4	2.5	4.9	
男性	111	49.5	34.2	21.6	7.2	6.3	9.0	7.2	3.6	4.5	1.8	3.6	1.8	2.7	
女性	93	38.7	21.5	35.5	18.3	16.1	11.8	14.0	9.7	8.6	9.7	5.4	3.2	7.5	

※全体スコアで降順にソート



<大腸がん検診の一次検査(便潜血検査)未受診理由>

設問:大腸がん検診(便潜血検査)を受けていない理由をお聞かせください。(複数回答)

(「一次検査の便潜血検査を「全く受けたことがない」と答えた人を対象)

		n=												
		どんな検診なのか知らないから	たまたま受けなかった	自覚症状がないから	便の提出が面倒くさいから	費用がかかるから	必要性を感じないから	申込方法がわかりにくいから	時間がないから	がんが見つかるのが怖いから	申込の手続きが面倒くさいから	決められた日に提出できなかったから	いつでも医療機関を受けられるから	その他
全体	96	34.4	29.2	26.0	25.0	21.9	18.8	11.5	10.4	9.4	8.3	4.2	2.1	0.0
男性	39	48.7	28.2	28.2	17.9	23.1	15.4	5.1	12.8	5.1	7.7	0.0	5.1	0.0
女性	57	24.6	29.8	24.6	29.8	21.1	21.1	15.8	8.8	12.3	8.8	7.0	0.0	0.0

※全体スコアで降順にソート

